

私立 関西外国語大学

取組名称 諦めるな！文系大規模大学の官民学連携緊急就職支援プログラム

取組担当者 外国語学部 教授・キャリアセンター所長 森川 長俊

1. 本学の概要

関西外国語大学の始まりは、谷本昇、多加子両先生が1945(昭和20)年11月に開学した「谷本英学院」にある。敗戦の混乱のなかで、「二度と悲惨な戦争を起こしてはならない」と決意し、「平和への思い」を外国語教育に託したのである。歴史も伝統も、文化も異なる国々と民族が価値観の違いや利害の対立を乗り越え、手を携え、平和を実現するには、相互理解と対話が不可欠である。その後、短期大学を1953(昭和28)年に開設し、1966(昭和41)年に大学・外国語学部を発展した。ともに実践的な外国語教育を求める、時代と社会の要請に応えたものである。また1973(昭和48)年に大学院修士課程(博士課程前期)を、1979(昭和54)年には、わが国の国公立の外国語大学では初めてとなる大学院博士課程後期を創設した。

現在は、大阪府枚方市の中宮キャンパスに大学院外国語学研究科、外国語学部、短期大学部、外国人留学生が学ぶ留学生別科、国際文化研究所、図書館学術情報センター、教職英語教育センター、人権教育思想研究所、イベロアメリカ研究センターが、同市内の穂谷キャンパスに、国際言語学部、アジア太平洋交流センターがある。2010(平成22)年5月現在、学生総数は13,000人を超えている。

本学では、「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成」と、「公平な世界観に基づき、時代と社会の要請に応じていく実学」を建学の理念としている。

2. 本取組の概要

本学の就職率は、2009(平成21)年12月1日現在、全国私立大平均71.8%に比べて、63.2%(8.6ポイント減)となっており、例年、全国大学平均を上回っていたのが(表1参照)一変し、厳しい状況となった。

原因は、①本学学生が例年多数応募し、多数内定を得る航空関連業界、旅行業界、ホテル業界等での大幅な採用減、②採用活動早期化により、5月から7月に

留学先から帰国する学生の内定減少、③語学以外の筆記試験対策の不足等である。

このような状況下の対策として、①緊急に実施すべきこと、②4月以降に中期的に実施すること、の二つに区分けしキャリアセンターを中心に検討した。

その結果、緊急に実施すべきこととしては、3月に卒業する未内定の学生に対し、個別指導強化のため、就職アドバイザーの常駐化、種々の催事等をキャリアセンター単独もしくは大阪労働局大阪学生職業センター並びに就職支援会社と連携し、学内にて開催することを決めた。また、中期的対策としては就職が決まらずに卒業した既卒生及び現4年生対象に、①地域企業の協力による企業セミナー開催及び大阪学生職業センター・就職支援企業と連携した帰国留学生を含むサポート体制の強化、②教職員、内定学生、OB・OG、そして新規雇用の就職アドバイザーによるカウンセリング、③各種支援講座の開催でモチベーションの向上を図るなどのあらゆる就職支援を行うの3点を決定。このような施策により既卒生、現4年生には、「就職できるまで諦めず安心して就職活動を継続する」ことができる体制を構築することとした。現3年生には、計画的な就職支援講座を行うことにより、幅広い業界に目を向けさせ、また、弱いとされている筆記試験対策を強化する。

表1 就職内定率(過去3カ年)

年度	本学就職率	全国大学就職率
2006(平成18)年度	98.5%	96.3%
2007(平成19)年度	98.4%	96.9%
2008(平成20)年度	98.1%	97.0%

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 本取組の趣旨

リーマンショック後、急激に就職環境が悪くなる中、特に本学が全国平均より就職率が悪化したというこれ

までになかった事態に対する危機感が、本取組を実施する契機である。この機会に本学就職指導の構造的欠陥を探り、今後同じような現象が起こらないようにすることを旨とし、そのための方策を、キャリアセンター委員、キャリアセンター職員、教務部職員を含めて検討した。

その結果、諦めずに就職活動を継続できる体制の構築、そして本学のこれまでの就職支援の手薄な部分に対する対策を講ずることに主眼を置くこととした。

具体的には就職アドバイザーを常時4～5名常駐して、個別指導を手厚くし、何回も採用試験に不合格になった学生にも諦めずに活動を継続させること、5～7月に帰国する4年生には就職活動を諦めずに取り組める機会の準備、また、苦手としている筆記試験（特に非言語部門）への対策を講ずることに力を入れた。

（2）本取組の目的

本取組の概要で述べたように、取組の発端は就職率が全国私立大学の平均を下回ったことである。従って、2009（平成21）年度の目標は就職率を80%にすること、そして次年度以降は先ずは全国私立大学の平均就職率を上回ることとした。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

（1）具体的内容と実施時期

（i）2009（平成21）年度卒業生に対する緊急就職支援

- ・2月12日から23日実施の3年生対策企業セミナーの参加企業に、4年生も参加できるよう要請
- ・2月22日に大阪学生職業センターによる初の学内相談会実施
- ・就職アドバイザーによる個別相談実施
- ・3月17日未内定者対象緊急就職ガイダンス開催と大阪学生職業センター上席職業指導官の講演、就職支援会社による合同採用説明会の開催

（ii）2010（平成22）年度4月以降の既卒生、4年生に対する就職支援

- ・既卒生の進路調査の実施により支援を必要とする既卒生の把握と、該当者に諦めずに活動するよう電話による励ましの実施
- ・常駐の就職アドバイザー・キャリアセンター職員による個別進路面談と個別指導の充実
- ・パソナグループに業務委託し、大阪・東京の都心部に就職活動拠点を確保するとともに、拠点常駐カウンセラーによる個別指導の実施

- ・全対象者に電話による進路調査を実施し、未内定者を把握。諦めずに活動するよう指導し、意欲喪失学生へのカウンセリング実施
- ・就職支援企業によるモチベーションアップ講座の開催
- ・5～7月に留学先から帰国する4年生に対して就職ガイダンスを実施。また、東京で行われる留学帰国生対象の合同企業説明会参加のため無料バスを運行し、キャリアセンター職員も同行
- ・未内定者同士の交流会を実施し、モチベーションの維持向上を目指す
- ・大阪学生職業センターと連携し、学内セミナーを開催。応募先の拡大を図るとともに、大阪学生職業センターでの催事及び登録を積極的に学生に紹介
- ・求人票が少なくなる夏休みに、本学独自の夏期企業セミナーを開催。また、就職支援会社独自の説明会を導入
- ・恒常的に採用実績のある企業に、学内での個別企業採用説明会開催の提案
- ・教員に呼びかけ、教員とキャリアセンター職員による企業訪問を実施し、求人依頼を行う。また、過去に求人票の提供のあった企業に郵便により求人依頼
- ・求人票を学内求人閲覧システムに掲載するだけでなく、未内定就職希望者へのメール配信を1週間に1回実施

（iii）2010（平成22）年度3年生に対する4月以降の就職支援

- ・キャリアセンター主催の就職ガイダンス実施日就職状況の現状、求められる能力、応募先に対して幅広い視野を持つことの必要性についての理解を深める
- ・就職支援企業による社会人基礎力講座等の就職支援講座の充実。具体的には、自分に合った中堅・中小企業の探し方、U・Iターンについて、グループ面接・グループディスカッション実践講座等のテーマを最適な時期に実施
- ・苦手としている筆記試験対策（全16コマ、内10コマは特に苦手としている非言語対策）を無料で実施。その前提として就職ガイダンス時に筆記試験対策の必要性の理解度を高める
- ・9月より就職アドバイザーとのカウンセリングを開始。就職意欲の向上を図ることにより就職希望率のアップ、また、12月以降履歴書・エントリーシート・面接対策等就職全般について気軽に相談できる下

地を構築

- ・パソナグループと業務委託した大阪・東京地区での就職活動拠点の利用を勧める

(2) 実施体制について

本学は従来から教員をキャリアセンター所長、またキャリアセンター委員として、中宮キャンパス7名、穂谷キャンパス5名選任しており、毎月1回、委員会メンバーとキャリアセンター職員（中宮キャンパス6名、穂谷キャンパス4名）が会合を持ち、現状分析、課題の把握、対策の構築を図り、毎月の教授会に報告し、全学的に目標及び方針の共有を図っている。

今回のプロジェクトも、この体制の中で現状に即した対策を臨機応変に実施していく。

また、大阪学生職業センター、大阪・東京の活動拠点の業務委託をしているパソナグループ、リクルート・毎日コミュニケーションズ・学情・大阪府経営合理化協会・ベネッセ・学研メディコン等の就職支援会社とは、緊密な関係を構築し各種支援を要請した。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 評価体制

本プログラム実施に当たり、学内においては毎月のキャリアセンター委員会で状況把握しつつ、臨機応変な施策を実行することとした。2010(平成22)年度末の本プログラム終了後に外部の「就職支援推進プログラム評価委員会」の評価を受けることとしている。

同委員会委員は、安岡重人氏（前サンスター株式会社社長）、清水正廣氏（モリテックスチール株式会社社長）、阿江九美子氏（株式会社ライフイノベーション代表取締役）に委嘱した。

(2) 評価方法

本取組の終了時の目標である、本学現4年生の就職率が全国私立大学平均を上回ることを達成できたかどうかを評価する。

6. 本取組の実施計画等

(1) 2009(平成21)年度卒業生に対する緊急就職支援

- ・2月の企業セミナー開催に当たり、本年は今年の卒業生も対象とするように参加企業に要請した結果、181社中55社と9県の大阪事務所の協力を得ることができた。また、延450名の学生が次年度の採用情

報を得、モチベーションアップ等で就職活動が活発になった。

- ・2月22日、大阪学生職業センターによる就職先紹介を学内で実施した。当日20名が紹介状を得て応募した。また、当日面談できなかった34名が後日、同センターに出向いた。この催事は、当日夜のNHK関西地区ローカルニュースで放映され、放送を見た会社から即刻、求人をいただく効果もあった。
 - ・本学では初めて3月に未内定者対象の緊急ガイダンスを実施し、3月以降に常駐する就職アドバイザーの活用、就職支援会社の第2新卒就職者研修制度の紹介、卒業後の大学の支援体制の説明並びに要支援者の登録、アルバイトに安住せず、正社員を目指すことを伝えた。また、当日大阪学生職業センター上席職業指導官から、既卒生に対する公的な支援、更に正社員を目指して頑張るよう激励をいただいた。終了後毎日コミュニケーションズの協力により、コメリ他5社の採用説明会を開催し、50名が参加した。
 - ・3月卒業の4年生の3月の就職アドバイザー利用学生は16名であり、内4名は2回、1名は3回の利用であった。
- 以上の活動の結果、就職率は以下のとおりである。

表2 2009(平成21)年度の就職率

項目	2009年度	2008年度
本学就職率	89.1%	98.1%
私大就職率	90.8%	95.5%
全大学就職率	91.8%	95.7%

(2) 2009(平成21)年度卒業生のまとめ

表2のとおり、就職率については、目標の80%を9.1ポイント超えて89.1%になった。これは全私立大学平均より1.7ポイント低いが、12月時点でのマイナス8.6ポイントを大幅に改善できた。

(3) 2010(平成22)年度4月以降の既卒生に対する具体的な就職支援と結果（8月末現在）

- ・今春卒業生の内、卒業後も支援を求めた学生は、両学部合わせて119名である。この学生に対し、学内求人ナビに掲載した既卒学生求人件数は71件であった。また、この求人内容を個別に電話連絡、メール発信で情報提供に努めた。また、8月6日に大阪学生職業センター主催の「フレッシュ就職フェア」、学内の「夏期企業セミナー」、同「就活キャンパスin関西外国語大学」「DREAM-MATCH PROJECT」の情報

発信をした。既卒者の進路は、表3のとおりで一定の成果を出すことができた。今後も継続して支援を続けることとしている。

表3 既卒者進路

項目	対象者	進路決定	内就職者	未内定
要支援者	119	60	47	59

(4) 就職年次生に対する具体的就職支援内容

- ・就職アドバイザーによる個別進路面談と進路調査を毎日4名の常駐アドバイザーにより指導を行った。本年8月までの延個別指導人員は1,418人である。また、電話による進路調査は延689人で、就活を諦めていた学生のカウンセリングができた。勿論これ以外にキャリアセンター職員による個別指導面談は従来のとおり行っている。
- ・パソナグループに業務委託した大阪・東京の拠点利用者数
2月～4月には多くの学生が利用し指導を受けたが、5月～8月にかけての利用者数が減少した。学内の「公欠届」も同じ傾向で、活動意欲減退が読み取れる。そのため6月から電話による進路調査に力を入れた。なお、2月～8月の延利用者数は625名であった。
- ・就職支援企業によるモチベーションアップ講座の開催
5月に開催したが、最高で32名の参加であり、4年生の未内定者集合型の指導は不人気で、企画当初の効果が認められなかった。どのような内容にすれば支持されるのか課題を残した。
- ・春学期の帰国留学生を対象に東京での合同説明会参加の無料バスツアーの実施
6月20日から22日に実施し、86名が参加した。現在2名内々定の報告があり、参加者からは、他大学学生との交流により就職意欲が高まった、色々な企業の話聞いて応募先が幅広くなったと好評であった。今後とも継続したい。
- ・「集まれ就活生」開催
未内々定者の仲間同志の交流会を4月～7月まで毎月1回実施したが、参加者は最高で10名と少なかった。未内々定者には仲間と話すことにより気持ちが安らぐ時間を提供できた。
- ・大阪学生職業センター主催の「フレッシュ就職フェア2010」の積極的な紹介、また、同センターから求人票を受領し、本学では扱っていない幅広い応募

先の紹介に努めた。

- ・求人票が少なくなり、活動意欲を失いがちな夏休みを、積極的な就活時期と認識してもらえるよう2回の説明会を企画した。1回目は8月5日の「夏期企業セミナー」で初めて開催した。語学力を生かせる会社等15社が参加し、延263名の参加を得た。また、2回目は8月10日に昨年から実施している就職支援会社による「就活キャンパスイン関西外国語大学」で、33社が参加、112名延370名が参加した。また、日常業務の中で従来より採用実績のある会社に求人依頼をすることにより、4月から8月までに846件（前年比102.2%）の求人票を集めたが、累計で3,646件、前年比83.0%と厳しい状況である。

(5) 現4年生の就職状況（中宮学舎8月末現在）

昨年までは、職員だけで個人指導していたが、本年からは就職アドバイザー導入により、単純に1,418回もの個人指導が増加したため、7月までは内々定者（継続活動中）と決定者（就職活動終了者）の合計は、前年より若干増で推移したが、8月の内々定者・決定者が大幅減となり累計で前年比92%と厳しい状況である。

また、本年の合計数の内、就職活動終了者割合は61.9%、前年は65.4%で学生の満足度は低いと言える。それだけ厳しい現状にある。

今後は、本学の強みである語学力、対人交渉力を生かせる求人の拡大、学内企業説明会の開催に注力し、学生にまだまだ応募先が有るので諦めずに就職活動を継続するよう励まし、サポートを強化していきたい。また、中小企業の強み、価値について説明をし、こだわりを持つ学生の気持ちを切り替え、幅広く企業研究を行い、応募するように指導していきたい。

(6) 現3年生に対する具体的な就職支援

- ・苦手としている筆記試験対策を6月～8月にかけて実施した。その内容は、苦手な非言語分野について、10コマ、言語分野は6コマ合計16コマを無料で実施した。
- ・秋学期より、就職アドバイザーの役割を従来の4年生中心から3年生の指導にシフトしてみたい。卒業後の進路についてのカウンセリングを始めることにより、就職希望率を高めたい。また、学生の就職観を柔軟にして、幅広い企業に応募が可能となるように指導していきたい。